

みなさんきょうは11月8日ですので、七五三のしゅくふくがあります。ぜひきてね。

そのとき、イエスはでしたちに、このたとえをかたられた。「てんのくには、つぎのようにたとえられる。

10にんのおとめがそれぞれともしびをもって、はなむこをむかえにでていく。そのうちの5にんはおろかで、5にんはかしこかった。おろかなおとめたちは、ともしびはもっていたが、あぶらのよういをしていなかった。かしこいおとめたちは、それぞれのともしびといっしょに、つぼにあぶらをいれてもっていた。ところが、はなむこのくるのがおくれたので、みなねむけがさして、ねむりこんでしまった。まよなかに「はなむこだ。むかえにでなさい」とさけぶこえがした。

そこで、おとめたちはみなおきて、それぞれのともしびをととのえた。おろかなおとめたちは、かしこいおとめたちにいった。「あぶらをわけてください。わたしたちのともしびはきえそうです。」かしこいおとめたちはこたえた。「わけてあげるほどはありません、それよりみせにいて、じぶんのぶんをかってきなさい。」おろかなおとめたちが、かいにいてるあいだに、はなむこがとうちゃくして、よういのできている5にんは、はなむこといっしょにこんえんのせきにはいり、とがしめられた。そのご、ほかのおとめたちがきて、「ごしゅじんさま、ごしゅじんさま、あけてください。」といった。しかし、しゅじんは、「はつきりいっておく。わたしはおまえたちをしらない」とこたえた。だから、めをさましていなさい。あなたがたは、そのひそのときをしらないのだから。

イエスさまのじだいには、デンキがなかったので、ろうそくではなく「ともしび」(ランプ)にあぶらをいれて、でている「しん」にひをつけたら、ながくもつようになっていました、あぶらがきれたら、つぼにはいてるあぶらをくわえるときえないので、よるになるとともしびのひかりで、いろんなことをすることができました。

イスラエルのちほうのけっこんしきには、はなむこが、はなよめをむかえにいくとき、10にんのおとめたちといっしょにいてた。10にんのやくめは、かれらをてらしながらいっしょにそのえんかいはることでした。このたとえはなしをよみながら、イエスさまは、わたしたちになにをつたえたかったのでしょうか。5にんのおとめたちはじぶんのやくめをはたすためにちゃんとひつようなあぶらをよういしてました。しかし、ほかの5にんのおとめたちはともしびのひがきえて、あぶらもないために、はなむこといっしょにいけなくなって、えんかいはいることができませんでした。

わたしたちには、かみさまからいちにち、いちにちをいただいています。それが「ともしび」です。わたしたちはじぶんがどれくらいまわりのひとのためにひかりとなっているでしょうか。

あさおきたとき、かみさまからまたこのいちにちをもらって、どのようにその24じかんをつかうかを、かながえたことがありますか。まいばん、あたえられたそのいちにちを、うまくつかったかどうかふりかえてみましょう。「ともしび」のいみがすこりかいてきましたか。

つぎに、「あぶら」は「あいするきもち」ですので、じぶんのためにきょうあたえられた「じかん」をだれかのためになることをすすんでやる。まわりのひとにしんせつにしてやさしいこえをかける。くるしんでいるひとのためにいのり、じぶんにできることがあればすることを、そのいちにちがうまくじかんをつかったことになります。

これからは、じぶんがなにができるのか。かながえてみましょうね。